

開 心
静 聴
充 満
献 身
奉 仕

日本クリスチャン・アシュラム連盟

夏季号

日本アシュラム

Summer 1980

United Christian Ashrams of Japan

32

Silver Jubilee of Japan Christian Ashram

Nov. 24 (Mon) ~ 26 (Wed) 1980, at Tozanso, Gotenba,

二十五周年記念

日本アシュラムへの招き

十一月二十四日(月) ~ 二十六日(水)

静岡県御殿場市・東山荘にて

物質的に豊かになつた今日、多くの魂は心の空しさを覚え、霊的な糧を求めています。キリスト信者も、その信仰の欠陥を感じて、聖霊の満しを受けたいと願っています。

この重大な時にジョーンズ博士が初めてわが国において、静かに主イエスと交わり、み言に聴き、悔改めて新生し、全き弟子に造り変えられ、真の教会性(コイノニヤ)の体験に導かれるために、アシュラムを開設して下さってから記念すべき二五年を迎えました。

最初の参加者たちはその恵みを全国に持ち帰り、今日までいかに多くの人々が、よい証人となってきたことでしょう。この感謝を私たちは主イエスに捧げ

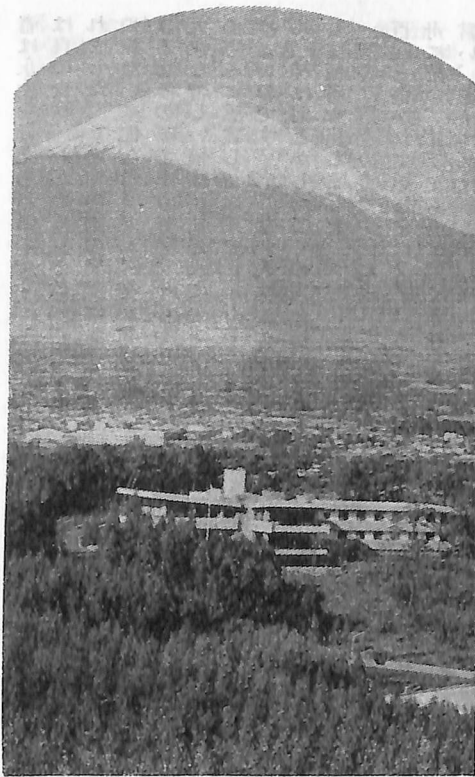
日本の教会を真に主に仕える器とならしめるために共に熱烈に祈る時を持つてはありませんか。

連鎖祈禱の開始

この二五年記念日本アシュラムを開くために、何より必要な事は全国兄弟姉妹の祈りによる一致であります。そこで準備委員会は過日、各地区委員会にあてて参加有志を募ったところ直ちに百名近い方々が各自担当時間をきめて下さり二四時間の連鎖ができました。開会当日まであと百十五日間、更に多くの方が参加し

インドからの助言者

日本アシュラムの二五年を共に祝うために遙々インドから、グヤ・P・タイタス先生が御来援下さいます。師は二年前にも来日されて豊かな信仰体験からすばらしいメッセージを与えられました。師はジョーンズ博士が世界最初のアシュラムを守られたサトタルに在って全インドを指導しておられる有力な主の御弟子の一人です。



会場 御殿場市・東山荘

りであって、常に新しい家族(単位)の参加を期待している。

編集人 海老沢 宣道
発行人 大石 嗣郎
定価 一部 50円
50円

福音の時 神の饗宴への招き

D・P・タイタス師

一九七八年秋の第三回国際アシュラムに於て福音の時に与えられた感銘深いメッセージを再び味わうために紹介する。

聖書・ルカ福音書一四章一五―二四

今日は忙がしい日程でしたが、収穫は多かっと思ひます。聖霊の助けにより御言が理解されるように祈ります。主イエスは例話を用いました。三六もありません。例話は作り話と異なり簡単に片づけられません。ココナツのようなもので、外見は粗末ですが、皮を砕き中身を味わうと誰でも好きになります。主イエスの例話も同様、最も高度な真理を説くために用いられたもので、東洋の創作的なものちがいが、日常生活において実際に見聞する経験を用いられます。

ルカ福音書一四章は神の国という最高の真理を晩餐会に例えたお話です。偉大なる招き、宣教の神学とも言えるものです。今日の神学が気づいていない伝道の本質がこの話の中に述べられています。

第一、神の国は大いなる晩餐会のようなものであるということで、私はこれが大好きです。もし神の国は大いなる哲学だとか理論だと言われては判りません。晩餐会なら誰でも判ります。料理が備え

られている幸いな場合、誰でも行きたくありません。ここにいる王は全ての人類を招いています。そのような宴会は神以外に備え得ません。十七節に「さあ、来なさい。準備はできた」という福音です。救われるために人間がすることは何もありません。善行を積み重ねばと言うことはないのです。私は盗み、殺人、傷害などしないから救われるとは限りません。さあ来なさい。用意はできたという招きを受けられることです。

主イエスは十字架上で「事終りぬ」と言われました。悪魔はイエスの人生が終ったことだと言うでしょう。しかしこれは主が地上でなさる仕事が完了したことです。この晩餐会で主の御体を分つ用意ができたのです。天よりのパンを食べる

者は永生を与えられるのです。「わが肉は真の食物、わが血は真の飲物」と言われました。この神の国の晩餐は十字架の上の贖ないに他なりません。神が備え下さる恵みの宴であります。その背後には大きな苦しい犠牲が払われています。その恵みに感謝してお招きに応じさえすればよいのです。応じない人は入れません。神は何とかして多くの人を招こうとして使者を出しました。

聖書は招きの書です。「来れ」が千何百回と書かれています。ノアは人々を方舟に招き、イザヤも全て渴く者は来れと言ひ、主イエスは断えず「来れ」と招いておられ、ザアカイは木から降りて従いラザロは死の墓から出て来ました。

今日の教会はこのように人々を招くことを怠っていませんか。大教会ほど招きをしていない。反対に小教会は日夜に招いている。神の国は招きによって起るのです。アシュラムは招きの運動です。スタンレーは世界各地で招きの働きをしました。多くの人がそれに応じました。ある若いブラーマが彼の招きを受けて「この招きが真理であることを祈る」と言つて、主イエスに明渡し、生れ変わって有能な政府の役人になりました。今日の教会で招きの役を誰がしていますか。牧師がしないなら、信徒がすべきです。

神がこの世にアシュラムを起されたのは、今日の教会を助けるためだと思ひます。教会の本質はコインノヤ(靈交)にあります。これを失つたら教会の生命はなくなります。アシュラムはそれを回復

好評

海老沢宣道著

アシュラムの原則と実際

定価300円 千60円

アシュラムの創始者・故スタンレー・ジョーンズ博士の直伝を受けた著者が、平易に解説し今回小冊子にまとめられた。参考書として活用されたい。

日本アシュラム編集部

177 東京都練馬区三原台 1-18-1 海老沢方

する働きです。「私たちは○○地区のアシュラムの者です。あなたも参加しなさい」と招く時、神の国に入るのである。招く時に応答が必要です。人々を主イエスのもとへ招く時、応答がなければ成り立ちません。招きを拒む人があることを主は予め知っていました。ある人は土地を買ひ、ある人は牛を買ったという理由で断わります。買物をして来られぬことはありません。ある人は結婚したのでと言いますが、なぜ花嫁をつれて来ないのですか。

二一節には主人が怒って使者を出して盲人、足なえ、病人をつれて来いと命じました。神の招きを断る時、神は怒っておられ、終の日に裁かれるでしょう。神の招きを辞退して安眠ができるでしょう

アシュラムの五大原則
(一) キリストへの明渡し



海老沢宣道師

25周年記念 日本クリスチャン・アシュラム
プログラム 於 東山荘 8/11.24-26

	11月24日(月)	11月25日(火)	11月26日(水)
6			
7	《主題》 『イエスは主である』 定員・200名	静養の時(指導) 宇野吉	静養の時(指導) 冷水 厚英次
8		朝食	朝食
9	申込先・西川口教会 申込金・1000円 宿泊費・12,500円 ×切日・11月15日	福音の時 (説) 後宮(同) 村上	福音の時(919ス) (同) 中村
10		祈りの細胞(各分列) 敷取 婦人 老人 青年	礼拝の時 (同) 海老沢
11		昼食	昼食
12	《登録》	ファミリーアワー (各地区)	散会
1	開会礼拝 (説) 中野 (同) 瀬江	著作の時 (指導) 櫻山	
2	全体開心 (指導) 瀬江	自由	
3	福音の時(919ス) (同) 白川	祈りの細胞 (分団別)	通訳 中川村 大内村
4	夕食	夕食	
5		賛美とあかし (同) 内村	《北海道アシュラム》 27日(木) 28日(金) 奥野内青少年センター
6	祈りの細胞 (分団別)	宣説の時(919ス)	
7	宣説(入浴)	祝典(入浴)	
8	連鎖祈禱	連鎖祈禱	

共催 日本クリスチャン・アシュラム 連盟八地区委員会

うか。神は初めに招いた者たちに断わられても計画を中止しません。他の人招かれます。神の国は金持、善人、貧者にも白人黒人の別なく与えられます。今日の牧師は按手礼の時に「御言を宣伝えよ」と命ぜられたことを忘れ、組織や委員会のことで忙がしく、救霊の時間を失っています。ここで僕は「まだ席が余っています」と言い、主の命を思実に行っています。救の恵みは全人類のために備えられて尚余りがあります。ユダヤ人だけ、クリスチャンだけ、欧米人だけに限るとは言われません。『この家が一杯になるように人々を無理やりに引張って来なさい』と命ぜられています。インドにはまだ福音を聞いていない人

が沢山います。文盲が多くテレビもラジオもない家が多いのです。道や垣根にいらる人々です。彼らを無理に強いて連れて来いと言われています。私は長年この無理に連れて来ることを理解しませんでした。宗教は説得するのが主旨で、強制することではない。恐らく翻訳がまずいでないかと思ひ、ギリシャ原語を調べた所、強制的にとありました。これは強制的な愛、兄弟を救うために愛の限りをして当ること、この強制は金でも銃でもなく愛の肉迫なのです。招いても来ないとして断念しない。これが宣教の神学です。誰でも教会へ招こう。今日の教会が招きの運動に熱烈になること、神の期待にあなただが答えることを祈ります。この

例話を与えて下さった主イエスに感謝します。神の国がよく判りましたから。どうか日本も諸国も全てのクリスチャンが主の忠実な僕となるように祈ってやみません。アーメン。

日本アシュラム二五年記念
感謝献金を募る

目標額 百五十万円

『祈れ、捧げよ、参加せよ』

二五年記念アシュラムの日程が上記の如く発表されました。多少の変更があるかも知れませんが、大筋は変わりません。準備委員会は全国の連鎖祈禱に支えられて着々と仕事を進めています。

ポスターは各教会でぜひ見易い所に展示して頂きたく、案内書(黄色紙)と募金趣意書(緑色紙)とは、夫々有望な信徒の方々へ配布して頂きたく存じます。日本の二五年を祝して、世界最初の開催地インドのサトタルから有力な助言者タイタス先生が来援されます。

以上の旅費、滞在費、謝礼、印刷代、宣伝費、郵税、通訳その他の事務費などを考えると、少くとも一五〇万円が必要となります。

そこで全国各地区委員は勿論、主に在る兄弟姉妹にお願い申上げたいことは、

- (三) 聖霊の導導と充滿
- (四) 神の国の体験と献身
- (五) 教会への奉仕と伝道

第一に、「祈り」です

主の特別な御祐助により参加者と全ての必要額とを満されるように熱烈なお祈りを毎日捧げて頂きたいことです。また勿論、全日程がご導きの下に進められ、参加者一同が主による直接のお取扱いを受けて新しくされることでもあります。

第二に、「献金」です。

祈りと共に感謝の信仰をもって尊い御献金を捧げて頂きたいのです。主イエスがスタンレーを用いてわが日本にアシュラム運動を植えて下さったことに対して心から感謝を捧げましょう。

第三に、「参加」です。

あなた御自身が万障を繰合せて、更に信仰の友人をも勧めて共に全国の各地から御殿場の東山荘へと参加して頂きたいことです。あの美しい富士山麓の宏大な緑の森の中の、よく整備されたYMCAの国際的な青少年センターにおいて、主イエスを中心に寝食と祈りの生活を共にする幸福を十分に味わって頂きたいのです。

以上の三点を御配慮の上、全ての必要が満されて感謝の溢れるアシュラムとなるように何卒御加禱と御協力をと切にお願いする次第であります。

サトタル・アシユラム五〇年記念

第四回国際アシユラム開催近し

十月八日からヒマラヤ山麓にて

スタンレー・ジョーンズ師がインド宣教六十年の間に啓示を受けて、インド牧師と英国婦人宣教師と共に僅か三名でアシユラム退修を守ったのは今から五〇年前、即ち一九三〇年の春、ヒマラヤ山麓の静かな湖畔においてであった。

その後スタンレーが世界的に知られるにつれ、南北米、欧州、アジアの各地に伝道旅行をすると同時に、この退修会を開催して多くの信仰復興を見るようになり、今日世界中至る所で守られている。従って今年には日本アシユラム二五年と共に世界アシユラムの五〇年祭でもある。

このために北米連盟は旅行団を組織して九月末にまずドイツのオーベルアンメルゴウ村に行き、有名な受難劇を見てから、聖地イスラエルに渡り、十月初週を巡礼に当て、次でインドのニューデリーで、日本チームと合流し、サトタルに向うことになっている。

日本チームは七日(火)正午、日航四六三便で成田発、同夕刻八時、インド・ニューデリー着、インペリアル・ホテルに宿泊、九日から北部インド・ヒマラヤ山麓の松や檜の木に包まれた美しい湖畔の退修道場で、五〇年祝賀のアシユラムを世界各国からの参加者と共に守り、インド本場のアシユラムに多くのことを学

びたいものと期待している。

十二日から三日間はラクナウ、アクラのタジマハール、ジャイプールを観光し、十六日(木)にニューデリーから帰国する予定である。

米國チームは退修会のあとラクナウからネパール国に入り、各地を観光してから北部インドを廻り、ニューデリーから帰来する予定である。

日本チームは西鉄旅行社の田中力兄の世話で旅行手続きをして貰うことになっており、参加希望の方は九月五日頃までに、連盟総務の大石嗣郎理事までハガキで申込んで頂きたい。十名で〆切る。旅費滞在費は全部で金三十五万円位。

サトタル退修の指導者

第四回国際アシユラムには米國から故スタンレー師の娘夫妻マシューズ師、インド伝道四十年のパウル・ワグナー師、オースタナ・ルーテル教会のウイリアム・パーグ師、先年来日のカナダ人ゴードン・ハンター師、同じく二度来日されたメリー・ウェブスター夫人、今年七月から北米連盟の総務になったローレンス・リキンス師などがリーダーとして参加される。

各地だより

▽札幌アシユラム

日本アシユラム連盟の同志が長年にわたり祈っていた札幌市におけるアシユラムが愈々今年十一月二七、八日に開催されることになり、神に感謝している。二五年記念に来日されるタイタス師に特に日を割いて頂き、これが実現を見るに至った。師は東山荘と同様、二日間に三回のメッセージを担当して下さい。これがために現地では加藤享師(バプ)を委員長として、平田久師(中央)の事務局長を助ける委員に、定家都志男(月寒)中村清信(東札幌)、藤井弘(小樽)、水野保羅(兄弟団)、久保木勤(ナザレン)の諸師五名が就任され、早速祈りを合せて準備に当り、会場を真駒内青少年センターに決定し、募伝と参加の契めを各教会にあてて発送している。北海道の中心部にこれを契機として、静聴と靈交の運動が定着し、全道に波及して行くことを期待している。

▽東京城北ミニアシユラム (第十一回)

来る十一月三十日(日)午前十時半の礼拝にタイタス師を迎える中野区江原町三ノ一九の江古田教会において、午後一時から引いて、城北アシユラムをミニ形式で守ることになった。池ノ上、天門、新宿西、更生の諸教会からも参加して、

開心、静聴、恵みの分ち合い、充満の時を持つ予定である。東山荘に出席できなかった人もこの機会に神の国の招きに応じられるように望んでいる。参加希望者はハガキで、江古田教会(海老沢牧師)あて申込んで頂きたい。

▽新潟アシユラム(第六回)

九月二一日(日)―二三日(火)二泊三日新潟県妙高々原の池の平向山荘において鈴木素雄師、酒井春雄師を助言者として守られる。聖靈の御導き豊かであるように祈る。

○訂正 前号三頁の時の第一行「主よ」に、第十三行目「梅」とは「梅り」の誤りにつき謹んで訂正します。

土木建築設計施工
土地分譲建売住宅
土地付注文建築全般

丸留建設株式会社

取締役社長 鈴木留蔵

本社 (274) 千葉県船橋市前原西 2-29-14
TEL 0474 (74) 1 2 5 1 ~ 2
支店 (275) 千葉県習志野市実籾町 3-13
TEL 0474 (72) 2 6 3 0